

日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会IAG小委員会（第25期・第2回）
議事要旨

日時： 令和4年1月11日（火） 17:00～19:00

会場： Zoomによるオンライン会議

【出席】 古屋正人，青山雄一，荒木博志，市川隆一，伊藤武男，大坪俊通（オブザーバー），小澤拓，太田雄策，田中愛幸，宮原伐折羅，渡邊俊一（敬称略）計11名

【欠席】 高木悠，宮崎真一（敬称略）計2名

配布資料

資料1： 2019-2023年期第6回IAG Executive Committee報告

資料2： 第25期第4回地球惑星科学委員会議事録（案）

資料3： 第25期第4回地球惑星圏分科会議事録（案）

議題

1. IAG Executive Committee meetingについて

宮原委員から2019-2023年期第6回IAG ECについて資料1に基づいて報告があった。IAG関連会合の今後のスケジュール、Inter-Commission Committee on Marine Geodesyで田所氏（名大）がチェア候補に推挙されていること、Journal of Geodesyの新分野のエディタとして横田氏（東大）が加わること（日本からは他に徐氏（京大）が副編集長として留任）、ITRF2020に合わせたIERS Conventionsの修正が求められていること、IUGG2023のジョイントシンポジウムの準備状況等について紹介があった。

次回ECは2022年4月（EGU2022）に実施予定。

2. その他

（1）古屋委員長からIAG各賞への日本測地学会関連研究者（特に若手）の推薦のエンカレッジがあった。

（2）古屋委員長から昨年12月に開催された日本学術会議傘下の地球惑星科学委員会及びその分科会について資料2，3に基づいて報告があった。地球惑星科学委員会において科学的提言の方法に、各分科会からの提言である「見解」という新たなカテゴリーを設けることが提案されており（資料2の4-1）、これに伴って地球・惑星圏分科会における地球衛星観測将来構想小委員会（福田氏（極地研）も参加）の提言の方法が変わる可能性があること、また、同分科会においてデータDOI等に関する学術データ共有小委員会に古屋委員長、大坪氏が参加していること、学術会議の方針に基づきマスタープランを策定しないこと等が紹介された。